



## 今月の話題

- 第4回中南米地震工学研修 開講式および研修～エルサルバドル～
- 第4回中南米地震工学研修 閉講式
- IAG-IASPEI2017 出席
- 地震工学通年研修の研修員による修士論文の最終発表会

## 研修 データベース

IISEENET (地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 第4回中南米地震工学研修 開講式および研修 ～エルサルバドル～

国際地震工学センター 特別客員研究員 関松太郎

中南米地震工学研修の在外補完研修(7月10日～7月21日)がエルサルバドル共和国・サンサルバドル市にある国立エルサルバドル大学(UES)と私立ホセ・シメオン・カニヤス中米大学(UCA)で行われました。研修は本邦研修生14名に加えて、新しくUESおよびUCAの学生が9名参加し、在外研修参加者は合計23名であります。

初日の7月10日には、開講式がホテルクラウンプラザの会議室で行われました(写真1)。

7月10日～7月12日はクラウンプラザホテルでUESおよびUCAの教授等の講義を熱心に聴講しました。7月13日はUESで研修生自らレンガのプリズム試験体を製作し、また、煉瓦壁体のダイアゴナルせん断試験を行いました(写真2, 3)。

7月14日のアドベ造壁の傾斜台実験では、開口を有する試験体の加力が行われました(写真4)。傾斜台実験にはテレビや新聞等のマスコミの取材があり、実験担当教授や藤城一雄 JICA 事務所長が実験内容についてインタビューを受け、後日放送されました。枠組組積造壁試験体の実験では、研修生は計測用ケーブルの結線作業などの準備段階から参加し、加力中でもデータ計測やひび割れ観測を積極的に行いました(写真5)。7月15日には、開発



写真1 開講式  
(神谷静 JICA 事務所企画調査員挨拶)



写真2 煉瓦プリズム試験体作成(UES)



写真3 レンガ壁直接せん断試験(UES)

## 地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## 論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

普及住宅財団(FUNDASAL)建築材料製造工場を訪問しました。7月17日～18日に、UCAで補強コンクリートブロックを用いた組積造壁試験体の実験が実施されました(写真6)。7月19日にはUESにおいて、写真2の研修生・学生製作のプリズム試験体を加力しました。また、7月11日には、研修について国立10チャンネルテレビのインタビューを神谷静 JICA 企画調査員、関およびロドリゲス・ロドリゲス・リーゼス UCA 教授(2016年度中南米研修生)が受けました(写真7)。

最後に、UCA や UES の関係者の十分な準備と熱心な指導、JICA 事務所の後方支援および、メキシコ CENAPRED のオスカー・ロペス博士の参加もあり、大変充実した2週間の研修を行うことができました。



写真4 アドベ壁の傾斜台試験(UES)



写真5 枠組み組積造壁の加力試験(UES)



写真6 枠組み補強コンクリート造壁の加力試験(UCA)



写真7 国立10チャンネルテレビのインタビュー

## 第4回中南米地震工学研修 閉講式

国際地震工学センター 上席研究員 犬飼 瑞郎

中南米地震工学研修の閉講式が7月21日にエルサルバドルの首都サンサルバドルのクラウンプラザホテルのホールにて開催されました。閉講式では、次の方々にご列席いただきました。

エドガー・ペーニャ教授(エルサルバドル大学(UES) 工学部 副学部長)  
フランシスコ・アラルコン教授 (UES 工学部長)  
カルロス・カニャス教授 (ホセ・シメオン・カニャス中米大学(UCA) 工学部長)

エリユード・アラヤ氏 (エルサルバドル公共事業住宅都市開発省次官)  
藤城一雄氏 (JICA エルサルバドル事務所長)

このうち、エドガー・ペーニャ教授には、司会をしていただきました。



UCAの教授であるパトリシア・デ・ハズボン教授とアドルフォ・ラモス氏(2009-2010 地震工学研修修了)のお二方は、UCAにて実大構造実験を担当され、閉講式に、ラモス氏が参加してくださいました。

また、UESでプリズム試験体実験および壁試験体実験を担当されているカルロス・エスコバル氏、マヌエル・グティエレス氏も、研修中、お元気でした。

5月11日からの全研修を修了した7か国14名の研修生及び7月10日からのサンサルバドルでの研修に参加した9人のUESまたはUCAの大学院生とともに、閉講式は幸せで心温まる時間となりました。現地での研修実現のために尽力いただきましたすべてのの方々に感謝申し上げます。研修参加者全員が研修に満足し、学習したことや経験したことを、自国で普及してくれることを願っています。最後に、サンサルバドルのレストランで、偶然、他の研修生のご親族とお会い出来たことは、大変有意義な経験であったことを、申し添えます。

講義で使用する言語はスペイン語です。より詳細の情報が欲しい場合は、遠慮なくIISEEにお問い合わせください。



楽しむのは今です。



閉講式にて

## IAG-IASPEI2017 出席

国際地震工学センター 主任研究員 藤井 雄士郎



写真① 神戸国際会議場

横井センター長、原上席研究員、芝崎上席研究員、林田主任研究員、藤井主任研究員は神戸国際会議場(写真①)において平成29年7月31日から8月4日まで開催された国際測地学協会及び国際地震学・地球内部物理学協会合同学術総会(IAG-IASPEI 2017)に出席しました。

総会の開催期間中には、会議場

## 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

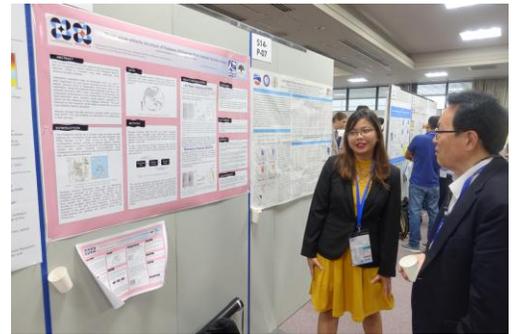
また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

[iiseenews@kenken.go.jp](mailto:iiseenews@kenken.go.jp)  
<http://iisee.kenken.go.jp>

3階に設けられた展示スペースに、国際地震工学センター（IISEE）のブースを出展しました（写真②）。ブースには、発表の休憩時間や昼休み、ポスターセッションなどの時間帯に、なるべく IISEE スタッフを配置しました。元研修生や現研修生、各国の研究機関の関係者の方たちとの交流を通して、国際地震工学研修の周知に努めました。元研修生や現研修生が研究発表を立派に行う様子（写真③）も見ることができ、国際地震工学研修の



写真② IISEE ブース



写真③ 元研修生による発表

研修効果を実感しました。

8月3日（木）の夜19時～21時に、三宮駅近辺の中華料理居酒屋で IISEE 同窓会を開催しました。元研修生11名、現研修生5名、研修関連の研究者1名、現講師4名、IISEE スタッフ5名、ポスドク1名の合計27名の参加があり、大いに盛り上がりました。

Harsh Gupta 氏（1966-1967 地震学コース参加、元 IUGG 会長）に開会・乾杯のご挨拶（写真④）をいただいた後、しばらく歓談、参加者が各自自己紹介をし、最後に Marino Protti 氏（1983-1984 地震学コース参加）に閉会のご挨拶をいただきました（写真⑤）。閉会后、近くの生田神社の参門前で記念の集合写真を撮影しました（写真⑥）。

IISEE 同窓会



写真④ Gupta 氏の挨拶



写真⑤ Protti 氏の挨拶

IISEE 同窓会



写真⑥ 集合写真

## 地震工学通年研修の研修員による修士論文の最終発表会

国際地震工学センター 管理室長 飯竹 理広

6月1日から個別にそれぞれの指導者のもとで行われた個人研修が終わり、久しぶりに21名すべての通年研修生が、国際地震工学センターに集まりました。

8月17日から18日には、個人研修の成果である修士論文の最終発表会を行いました。

早いもので、約1年間の研修も残り2週間です。

バックナンバーは  
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>